

☆ こんごうせき ☆

八代市立
金剛小学校
学校だより
6月16日

道

みつを

長い人生にはなあ
どんなに避けようとしても
どうしても通らなければ
ならぬ道――
てものがあるんだな
そんなときはその道を
黙って歩くことだな
愚痴や弱音を吐かないでな
黙って歩くんだよ
ただ黙って――
涙なんか見せちゃダメだぜ!!
そしてなあ その時なんだよ
人間としてのいのちの根が
ふかくなるのは……

◎「書の詩人」「いのちの詩人」と称される 相田みつをさんの詩です。「にんげんだもの」「一生感動一生青春」「しあわせはいつも」等、たくさん作品を世に送り出されています。弱った心に栄養を与えてくれます。

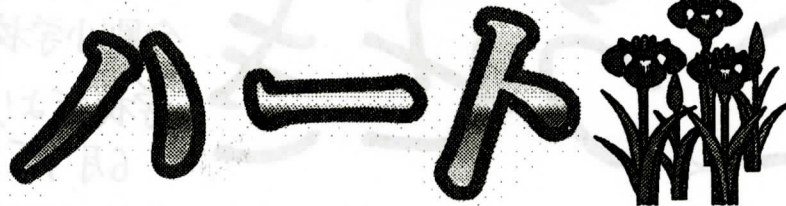
「親子で話そう! 家族のきずな 我が家のルール」三行詩

一人で食べると さみしいご飯
二人で食べると おいしいご飯
家族で食べると 楽しいご飯

徳島県美馬市
小学校6年
山口健太郎くん

裏面の「子ども支援相談室だより」もご覧ください。

八代市教育委員会 教育サポートセンター内に相談室があります。



八代市教育サポートセンター
やつしろ子ども支援相談室便り
平成28年 6月号

この通信では子育てに関する様々な情報をお伝えします。

今月は、「子育て今昔」というテーマで、元文化庁長官で心理学者、河合隼雄先生のお話をQ & Aでご紹介します。

Q 朝のテレビでは「とと姉ちゃん」が活躍していますが、あの昭和の時代は遠い昔。先生は、親の気質が昔と今では変わったとお考えですか。

A 今、母親として子供につらさや苦しみを味わわせたくないという思いが強くて、ついつい面倒みすぎな人もいますね。たとえば言えば、子供が転びそうな石があるとき、転んで痛い思いを学ぶ方が子供のためと、頭ではわかっているけど、ついつい石を全部どけてしまい、転び方を知らない子供になってしまうというような。

私は親の気質が昔と今でそんなに変わったとは思いません。昔の親も思いは同じだったのです。昔の親も時間的なゆとりがあったら、石ころをどけたかったのだけど、忙しかったから、どけられなかっただけ。

Q 昔は子育てに悩む親は少なかったようですが、今はどうしてこんなに子育てが大変なんでしょうか。

A 今はものや金があるでしょう。親にとってこんなに難しいことはないのです。昔なら、「買って」と言われたって「カネない」と言ったらおしまいです。カネがあるけど「買わない」というのは、ものすごく難しいです。いっぺんそこで、決断がいるでしょう。昔は決断はいりません。買えないんですから。

石ころだって、どけに行こうと思ったらできるのに、子どもが転ぶのをみすみすみ見ていながら、それをしない、というのをしなきゃならないから難しい。

今の親にとって難しいことは、「〇〇をしない愛」というのを開発しなくちゃならないことですね。「〇〇をする愛」じゃなくて、これは大変なことですよ。だから何も、昔の親のほうがえらかったとは思いません。

みなさんも、「〇〇をしない愛」に挑戦してみませんか
まずはできることから、子供を信じて



子供さんのこと
一人で悩まないで、
気軽にご相談ください

八代市教育サポートセンター内
やつしろ子ども支援相談室 電話 30-1669
(時間 13:00~17:00)

メール kodomo-sien@yatsushiro.jp